

環境と装備（作業区域 浮遊カビ 防護一覧 20230613）

作業区域	浮遊カビ数 (測定月日)	cfu/m ³	評価	参考 (外気) cfu/m ³	アイソレーション キャップ、 手ぬぐい等	マスク	手袋	作業服		靴
									(左列以外の選択肢)	
B1F 整理室	2023年 4月23 日	54	清浄	川崎市市民 ミュージアム	気になる方は着用	カビがたくさん付着し乾燥した資料を分離する、カビ払いする等、資料に長時間近接して作業をされる方はDS2マスクを着用してください。それ以外の方はDS1マスクないし不織布マスク着用でも問題ありません。 マスクに記載されている使用時間後廃棄	A. ニトリル手袋のみを装着 B. 綿薄手袋の上にニトリル手袋を装着 C. その他作業用手袋を装着 繊細な素手の感覚が必要な作業（開披や水洗浄など）もありますが、傷口等がある場合、素手は控えてください。 ニトリル手袋は汚れなければ複数回の使用をお願いします。綿薄手袋はKCMで準備していますので、良ければご利用ください。	アイソレーションガウンを用意しています。不織布製は通気性が比較的高いため、暑い時期は推奨します。プラスチック製は耐水性がありますが通気性はありません。作業内容等に応じてお使いください。 複数回の使用をお願いします。	使い捨ての防護服（水を使う作業、汚れる作業）。通常の作業服	通常の靴（ただし、水を使う作業、靴が汚れるような作業の場合は長靴）
1F ラウンジ		10	清浄							
3F 研修室3		72	清浄							
3Fミュージアム ギャラリー		130	清浄							
3Fアトリエ		40	清浄							

<p>浮遊カビの評価基準</p> <p>1) 災害時の維持管理基準 (1) 作業区域 (被災資料を扱う作業室、保管室等) 1,000 cfu/m³未満 (2) 一般業務区域 (事務所、会議室等) 200 cfu/m³未満</p> <p>2) 浮遊カビ数に対応した汚染度を表す用語 2,000 cfu/m³以上 強汚染 1,000 cfu/m³以上2,000 cfu/m³未満 汚染 200 cfu/m³以上1,000 cfu/m³未満 準清浄 200 cfu/m³未満 清浄</p> <p>単一ないし数種類のカビで600 cfu/m³ ~ 1,000 cfu/m³程度であった場合は、汚染または強汚染とする。</p>
--

2023年4月23日の調査によれば、3Fミュージアムギャラリー・3Fアトリエ(準清浄)以外の作業区域の数値はきわめて低く、清浄です。外気と比較していただいてもおわかりいただけるかと思えます。測定データについては上記をご覧ください。当日の装備についてわからないことがあれば、市民ミュージアムスタッフにお聞きください。

この「環境と装備」はNPO法人カビ相談センターの監修により作成しています。浮遊カビの評価基準、汚染度、防護方法は、国立文化財機構文化財防災センターが公開している「室内労働環境の浮遊カビの測定・評価と浮遊カビ等からの防護に関する管理基準（ガイドライン）」及び「浮遊カビ等からの人体の防護に関するマニュアル」に基づいています（下記URLないしQRコード）。
<https://ch-drm.nich.go.jp/facility/2022/03/post-49.html>
 2023年6月13日



<p>浮遊カビの汚染度と防護方法</p> <p>1) 強汚染または汚染の場合 作業区域では防じん性能の高い産業用マスク（DS2およびそれ以上の防じん性を有するマスク）を着用する。ゴーグルは常時着用ないし携帯を推奨する。アイソレーションキャップ等を着用する。作業着は使い捨ての防護服（つなぎの不織布製白衣等）ないし一般的な作業服とする。一般業務区域においても上記のマスクを着用する。</p> <p>2) 準清浄または清浄の場合 作業区域では、少なくともDS1相当マスクまたは日本産業規格等に適合した不織布マスクを着用する。作業着は一般的な作業服とする。 燻蒸の前後にかかわらず、カビが付着した資料を出し入れする、クリーニングする、固着した紙資料を分離する等の作業（カビが付着している資料に長時間近接して行う作業）では、強汚染または汚染の場合の防護方法に準じる。 一般業務区域では、マスク着用は任意とする。服装は一般的な服装とする。</p>
--